

A-7 被服作品評価について（第1報）

—関口式評価法の客観性について—

郡山女子短大○関口富左・原田恭子
渡辺ハルヨ・門馬寿子

被服作品に映る性格抽出を試みようとするためには、現行の作品評価方法に依っては不可能なので、1952年独自の評価方法を研究し、これを関口式評価方法又はT.P式評価方法と名付け、爾来6年この方法を用い作品指導を試みてきた結果、教育的効果と、技術の進歩に見るべきものがあるように思われるが、評価に於ける客観性の如何が最も重要な問題であると思惟されるので、ここに大学、高校、中学の各被服担当教師10名による試料100例をもってこれらの検討に当たった結果を報告せんとするものであり、更に過去6年間に亘る製作者個々による約500例をとらえ師評との客観的相関をも併せて報告するものである。